

水曜日はふれあい広場に行こう

—コロナ禍の2年目 誰もが孤立しない地域づくりのために

屋外広場を活用した地域の居場所づくり「青空カフェ」—

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 太子堂あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）

千葉 律、五十嵐 寿春、石川 泰子、小田 麻理恵

中田 成子、船戸 玲子、三宅 真弓

（地域づくり コロナ禍 閉じこもり予防）

1. はじめに

長引くコロナ禍の中、自粛生活が続き、地域行事や住民主体のサークル活動の多くは中止、仲間とお茶のみの機会も減少し誰もが気力体力ともに低下した。コロナ前に定期的に行っていた民生・児童委員やあんしんすこやかセンター職員の見守り訪問も制限され、地域の見守り体制も弱まってしまった。「閉じこもり予防」と「地域のみなさんのつながりを取りもどす」には？感染対策をしつつ、短時間でも、ちょっとした話をつぶやけるまちの小さな居場所をつくれませんか？と考えた。

2. 実践内容

（1）なぜふれあい広場なのか

コロナ前の平成27年（2015年）から、屋外のふれあい広場のブースを使って、あんしんすこやかセンターと民生・児童委員、地域の訪問看護ステーション等が協力して、青空保健・相談室を開催してきた。三軒茶屋駅前の屋根付き広場でわかりやすく、年1回「太子堂あんしんフェア」という交流イベントも定着していた。感染予防、3密回避できるのは、この屋外広場しかないといひらめいた。

（2）「青空カフェ」

令和3年（2021年）4月から三軒茶屋ふれあい広場とブースで「青空カフェ」を開始。買い物帰りに立ち寄っていく方や、介護の悩みや体調のことを話題にしながら、時には折り紙や簡単な体力測定、ACPガイドブックについて話を聞いたり、コロナ禍でニーズの高まっているスマホやパソコンの使い方についてミニ相談もできるようにした。

広場とブースの貸し出しはまちづくりセンターが担当し、会場づくりはあんしんすこやかセンター、町会、民生・児童委員、ボランティアさんなどで担い、集まった住民さんどうしが自由に話し合い、こんなことやってみたいということができるように、あんしんすこやかセンターがバックアップする体制を整えた。

（3）「青空ラジオ体操」

その中からボランティアさんの発案で生まれたのが「青空ラジオ体操」。老若男女みんな一緒に体を動かして爽快感を味わえる。密にならないよう広がって。その日に集まった方の中から一言メッセージなども恒例になっていった。



(4) 「青空保健・相談室」

「青空保健・相談室」はコロナ禍でも継続して開催、身近な相談を受けるとともに広場に椅子を並べてミニ健康講座や介護予防体操も加え、ちょっとした青空教室の雰囲気である。

(5) 青空カフェ拡大版 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例懇話会」の開催

9月22日(水)の青空カフェでは、「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」について学び、地域みんなで意見交換しあう懇話会を企画した。コロナで中断している地域の認知症カフェの根を絶やさず繋がりを保ちたいと考えた。実施にあたりまちづくりセンターや社会福祉協議会の協力も得た。認知症のある人もない人も誰もが一緒に集えるまちの居場所「青空カフェ」でこの懇話会が開催できたことは大きな第一歩であった。



3. 実践をとおして私たちが学んだこと

こうして7月からは、「毎週水曜は広場に行こう！」をキャッチコピーに、感染対策をしながら「青空」地域活動を試行錯誤で進めている。地域にはたくさんの力がある。このまちで暮らす人や働く人の声から住民主体の新しい試みが生まれ、地域みんなが元気になる。住民どうしの繋がりが広がることで、どのような状況下でも大きな見守りネットワークの輪ができる。「青空カフェ」は、まちの人が気軽に話したり、くつろげる場でもあり、このような場や声を受けとめる人の大切さを改めて認識した。あんしんすこやかセンターは3職種が協働して個別の相談やまちの人の声を聞きながら、多様な介護予防の場づくりや見守りネットワークの構築、地域課題の発見に関係機関とともに今後も絶え間なく努めていく。



<助言者コメント>

山本 学 (社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会連携推進課課長)

本報告は、コロナ禍で様々な活動が制限・休止される中、太子堂あんしんすこやかセンターが“できること”を見出し、広場が持つ様々な機能を活用し、「地域の居場所」「見守り」など人と人が繋がる機会の創出や意義を伝えてくださいました。

「ふれあい広場」はランドマークとしてわかりやすく、感染不安の要素である密を避けるに適した場所で、参加のしやすさがあります。地域の資源を活かし気軽に立ち寄れる中で介護予防・保健相談もできる居場所づくりは、あんしんすこやかセンターの保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種の専門性を発揮した取り組みと言えます。また、この取り組みの発展性に期待できるのは、住民の自発性・主体性を上手く引き出しているところにあると思います。

支援者も参加者も共に考え、プロセスを大事にしながら支援されているので、一人一人の主体性が形成され「自分の居場所」という拠り所となり、参加者の帰属意識が生まれる楽しい居場所となります。報告動画の参加者を含め関わった方々のコメントはそれを物語っています。

今後もあんしんすこやかセンターと専門多職種が繋がることで、この「青空カフェ」は制度の枠を越えて、孤立する生きづらさを抱えた方やこれまで地域との繋がりが希薄だった方々が、人とのつながりを構築する場として重要な機能を発揮する拡がりのある取り組みとなると思います。そして、この広場の発展を基点として生まれる元気と顔なじみの関係が波及し、様々な課題の解決につながっていくと思います。感染対策をしながら、試行錯誤を重ねご苦労もいろいろあったと思います。

住民参加と協働の地域づくりの好事例をご報告いただき、ありがとうございました。